結核しずおか

18号2006年4月28日

発行
財団法人　結核予防会静岡県支部
〒420-0915
静岡市葵区南瀬名町6-20
TEL 054-261-2512
FAX 054-261-9474
Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp
発行責任者　山田勝平
印刷　三協印刷株式会社

巻頭言

健康づくりの現場から一言

結核は過去の病気ではありません!!

結核は今のところ最大級の感染症であり、日本は世界的にみて、依然として結核中まん延国に位置づけられています。

当市における過去10年間の結核による死亡者数をみますと、70歳以上が8割近くを占めており、年齢別新登録結核患者数においても5割を超えております。

平成17年4月結核予防法一部改正に伴い、①小児期の重症結核を予防するため、接種に先立ち実施してきたツベルクリンを廃止し、BCG直接接種とし、接種年齢も4歳までであったものが、出産直後から生後6か月未満実施となり、②住民検診の対象者が原則65歳以上と変わりました。

当市においては、①BCG予防接種を生後3か月～6か月未満、②住民検診は対象者を40歳以上とし、肺がん検診と同時実施しています。住民検診受診者は減少傾向にあり、平成17年度受診率は38%で、男性の受診率が女性より低い状況にあります。しかも、受診者の固定化や、「毎年同じことを言われるからもう検診を受けない」等の精密受診者からの言葉が聞かれることがあります。しかし、結核が猛威をふるっていた1935年～1950年代、この時代に青春期を送っていた現在の高齢者は、大部分はその時代に結核の感染を受けており、幸いにも発病を免れたものの、結核菌を体の中に抱えたまま高齢期に達しています。車検と同じように体も定期点検し、次のことに心がけてください。

1. 乳児期のお子さんのBCG予防接種をしっかり受け、感染から守りましょう
2. 特に65歳以上の方は住民検診をしっかり受けましょう
3. 精密検査が必要となった方は必ず受診しましょう
4. 糖尿病などの生活習慣病を予防し、免疫力を高めましょう
5. 2週間以上続く咳、痰等の症状がある場合は、検診ではなく病院受診しましょう

富士宮市保健福祉部福祉企画課
課長　中川礼以子

平成18年度一般会計事業計画書

18年度の事業計画について、主なものについてお知らせします。

1　結核を中心とする疾病の予防思想の普及

○全国結核予防週間における啓発

全国結核予防週間　　平成18年9月24日（日）～30日（土）

○キャンペーンの実施　　9月に静岡市駿河区　アピタ静岡施設内及び県下各地で結核予防婦人会を中心に啓発活動や複十字シール運動の展開。

○ポスター等の広報活動　　バスターミナルやバス車内における電光掲示板による広報や関係機関へのポスターの掲示。

2　結核予防大会等の開催

○静岡県結核予防大会

平成18年9月　県結核予防婦人会と共催。静岡県、市町の協力を得て実施。

○結核予防全国大会

第58回　平成19年3月　岡山県で開催。

3　広報資料の作成、配布

○「結核しずおか」を年2回3000部発行、結核予防の普及、啓発。

○「複十字」（結核予防会本部作成）、「健康の輪」（全国結核予防婦人団体連絡協議会作成）の配布。

17年度　結核予防週間における全国いっせい複十字シール運動
（（於）JR静岡駅）

4　平成18年度検診事業計画

○学校検診　　49,000人

○住民検診　　109,700人（胸部、肺がん、胃がん、乳がん検診）

※18年度から新規に乳がん検診に取り組みます。

○事業所検診　　58,800人（結核、肺がん、胃がん検診）

○総合健診　　8,000人

○施設検診、定期外検診　　4,600人

5　施設の整備

○デジタル式胃部検診車を18年度に購入予定。

○検診事業の充実、拡大と精度の向上を図る。

平成17年度検診結果報告（速報）

○17年度は、結核予防法の一部改正により、対象年齢等が縮小され検診人員等の減少が心配されましたが、ほぼ例年並の検診をいただきました。

○検診人員319千人（主なもの）

内訳（胸部間接215千人、胸部直接12千人、肺がん検診81千人、胃検診11千人）

○16年度に購入した胸部のリフト付検診車が老人ホーム等で幅広く利用されました。これは車イスに乗ったままでエックス線撮影ができることから大変好評でした。是非多くの皆様ご利用をお待ちしています。

マンモグラフィ検診車で乳がん検診スタート

乳がんは、毎年増え続けて女性のがんでは、トップになりました。乳がんは、早期に発見し、治療を行えば予後は良好であります。そのため乳がん検診は大事なことです。

静岡県の平成15年度乳がん検診受診率は、全国平均を超え上位で、視触診検診では26.4%と全国でトップです。しかし、マンモグラフィと視触診の併用では、受診率が0.4%と全国平均を下回る状況にあります。これは、マンモグラフィ撮影の必要性についての受診者へのピーアール、さらにはマンモグラフィ装置の設備が充実していなかったためだと思われます。

こうしたことから、当会では、これまでの各種の検診事業で培った経験を生かして、18年4月から乳がん検診車（マンモグラフィ装置2基搭載）により県内の市町へ、写真のようにスマートな車両により住民検診や事業所検診に伺います。是非ご家族の安心・安全のため、検診にご利用ください。

ピンク色をベースにピンクリボンを付けて県内を走ります！

最新デジタルマンモグラフィ装置（車内）

予防会のマンモグラフィの特徴

① 最新式デジタルによる撮影であるため画像を確認しながら撮影できます。
② 検診車の中は、一人用脱衣室を設けプライバシーが保てるよう配慮しています。
③ 検診車なので、最寄りの場所で検診が受けられます。
④ マンモグラフィ装置2基で実施するので、1日最大100人が検診できる。
⑤ 受付及び放射線技師すべて女性スタッフで対応します。
⑥ 予約制で待ち時間をできるかぎりなくします。
⑦ パソコン受付であるため、確実・安全（個人保護）に受診できます。

財団法人結核予防会 静岡県支部
担当　原田・富田

第10回結核予防関係婦人団体中央講習会に参加して

静岡県結核予防婦人会　三島支部長　浜道まつ江

平成18年2月8日（水）から10日（金）までの3日間の講習会でした。

好天に恵まれて、午後2時からの開講式には結核予防会総裁秋篠宮妃紀子様がご出席され、「婦人会の方々が積極的に結核予防事業に関わっていることは、誠に意義深く、人々の健康に力を尽くされていることに対し、深く敬意を表します。」とのお言葉をいただきました。前日に第3子御懐妊の発表もあり特に感銘を受けました。紀子様は、とても美しくやさしい笑顔で、そのお声もとても静かでした。また、受講者との記念撮影にも同席してくださいました。

参加者は北海道から沖縄県まで103人で、皆とても熱心な討議でした。

結核の現状として、昨年の新規登録者が3万人、そのうち1万5千人が排菌していて、65歳以上の高齢者に罹患率が高く、年1回の検診が大切とのことでした。

婦人会の役割としては、検診の必要性を広げ、その資金づくりのために複十字シール募金運動があり、その有効的な利用についても知ることができました。

どうしたらこの運動を一般の人に知ってもらえるかとの討議もあり、常に使用できる品にしたらどうか、ある県では銀行、警察、郵便局等に協力を求めマスコミで宣伝をしているという話もありました。シールの使用法としては、年賀ハガキやプレゼント、または名刺に貼り、「これ何のシール」と聞かれることがシール募金の広がりに繋がるとの話もありました。また、お年寄りは切手と間違えるので、切手ではないという表示が欲しいという要望も出ていました。

平成16年度の婦人会の組織募金では、静岡県支部のシール担当者から当会が全国1位という報告があり、私たちの力は大したものだと少し鼻を高くしました。

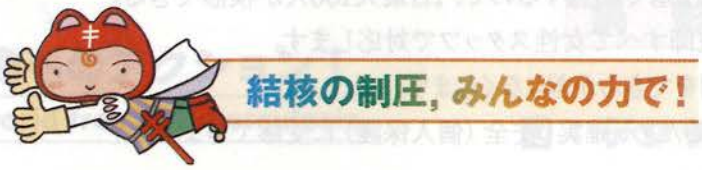
この講習会に参加させていただき、多くの方からパワーを貰い、一人一人の活動の大切さを感じました。事務局の話し合いを参考にしようと思いながら2泊3日の講習会を終了しました。

ありがとうございました。

平成17年度結核予防リーダー研修会開催報告

平成18年3月8日（水）午後1時から静岡県男女共同参画センター「あざれあ」6階大ホールにおいて、216名の参加を得て開催いたしました。

今回は（財）結核予防会会長である青木正和博士と当支部の杉山保夫検診部次長による講演を行いました。青木会長からは「今後の結核予防対策－予防法の感染症法への統合を考えて－」と題して、対策の現状・課題等について、また、杉山次長からは「放射線（X線）検査の歩み」と題して、乳がん等も含めた豊富な検査事例についてそれぞれお話をいただきました。講師陣、参加者双方の熱意により充実した研修となったことをご報告いたします。



複十字シールで運動の輪を広げましょう。
http://www.jatahq.org

第57回結核予防全国大会に出席して

第57回結核予防全国大会が、18年2月28日及び3月1日の両日、関係者多数の出席をいただき、東京で盛大に開催されました。残念なことは、毎年ご臨席を賜る、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下が皆様ご案内のご慶事により、ご臨席がいただけなかったことです。

内容的には、第1日が研鑽集会のセッションⅠ「－新結核対策体系のあるべき姿を求めて－」及びセッションⅡ 世界結核デー（3月24日） シンポジウム「－アフリカの結核危機と日本の貢献－」。

第2日は秩父宮妃記念予防功労賞表彰と特別講演「結核を病んだ人たち－その生と死－」でした。その主なものについて報告します。

セッションⅡ 世界結核デーシンポジウム—アフリカの結核危機と日本の貢献

HIVに感染したことを発表、結核にも感染しこれを克服した人物「ウインストン・ズル氏」（ザンビア）が、今も増え続ける結核による死亡者を減らすために自らの体験とアフリカの現状を語られ(基調講演)、その後、出席者による世界の結核に対する取り組みについて討論されました。

特に基調講演では、サハラ以南のアフリカではHIVが猛威を振るっています。しかも、結核患者の多くがHIVに感染しています。ザンビアの結核患者の40%はHIVの陽性患者であり、このため、ザンビアの平均寿命は37歳です。HIV感染に対しては未だ適切な治療法はないことと、治癒することが出来る結核に対して貧しいため治療を受けられないことによります。

ズル氏自身もHIVに感染、結核も発病しましたが、治療を受けることにより完治できたのです。しかし多くの人は貧しいため治療薬を手に入れることが出来ず、結核で亡くなる人がアフリカには大勢いるのです。

結核で亡くなるほとんどの人は、働き盛りの年齢にある人たちです。アフリカの貧困と不安定の原因であり、結果でもあるこの結核を解決する必要があります。日本の皆様の支援がぜひとも必要とのことです。私たちも、政府等（官）の支援もさることながら、民（個人）で出来ることは、民がやるということが大事であるとの議論が弾みました。

特別講演 結核を病んだ人たち－その生と死－財団法人結核予防会 青木正和会長

明治以降、不治の病といわれた時代に「結核」に罹患した著名人の結核との闘いと酷さを語られました。

特に、若くしてなくなった樋口一葉は貧しい中、ようやく作家として名が知られ、「たけくらべ」など作品を22歳から23歳までの時期に世に出し、24歳6ヶ月で死亡。

また、滝廉太郎についても、21歳で「花」、「荒城の月」など発表、翌年ドイツ留学、留学中に発病帰国、23歳10ヶ月で死亡、絶筆となる作品は「憾み（うらみ）」。

このように若い人の結核は、本人にとってまさに「憾み」である。このほか、正岡子規、国木田独歩、堀辰雄など老若を問わず多くの人たちが結核と闘われたつらい病気であった。

結びとして青木会長は、**世界で1年間に881万人の新発生患者が、しかも年々1.5%増え続けている。この治療可能な病気—結核で、世界では毎年200万人が死んでいる。これは今日、とても受け入れられないことだ。**と話されました。

（田辺 和祐記）

デジタル検診車の現状

皆様もご存じのように、医療機関において急速にデジタル機器の普及が進んでおります。集団検診に関しても、デジタル検診車の導入が進んでまいりました。当予防会でも17年度に購入した乳がん検診車、18年度に導入を計画している胃検診車はいずれもデジタル検診車でありますことから、医療機器のデジタル化についてご報告します。

そこで、X線画像をデジタル化することによって、①画がすぐ出る ②被曝が減る ③画質が向上する ④検査時間が短縮する等のメリットがあります。すでに医療機関において院外又は院内の放射線科ネットワークを活用して患者データの一元管理（PACS）や遠隔医療などが行われており、従来のアナログフィルムでの問題点である ①X線撮影は撮影条件などがむずかしい ②現像室の管理が煩雑 ③X線フィルムの保管がわずらわしいなどの問題点が、デジタル化によって臨床面、経済面の充実をはかることが出来、集団検診においてのデジタル化は撮影後その場で画像を確認しますので、トラブル等が生じたとき、従来の撮影ではミスによる再度の呼び出しをすることがなくなり、ハードディスクに保存しますのでネットワーク化を行えばリアルタイムで情報を得ることも可能です。

デジタル検診車は従来型のアナログ検診車と何処が違うのか。

①撮影は簡単!

撮影設定はオートマ化され、撮影されたらその場で画像を見ることが出来、デジタル画像処理でいつでも見やすい画像を映し出します。

②フィルム現像の煩わしさ解消!

暗室作業がなく、現像・定着液の廃液がなくなります。また現像温度や液剤の管理がなく自動現像機の清掃などがなくなりますが、メンテナンスに関しては割高になります。

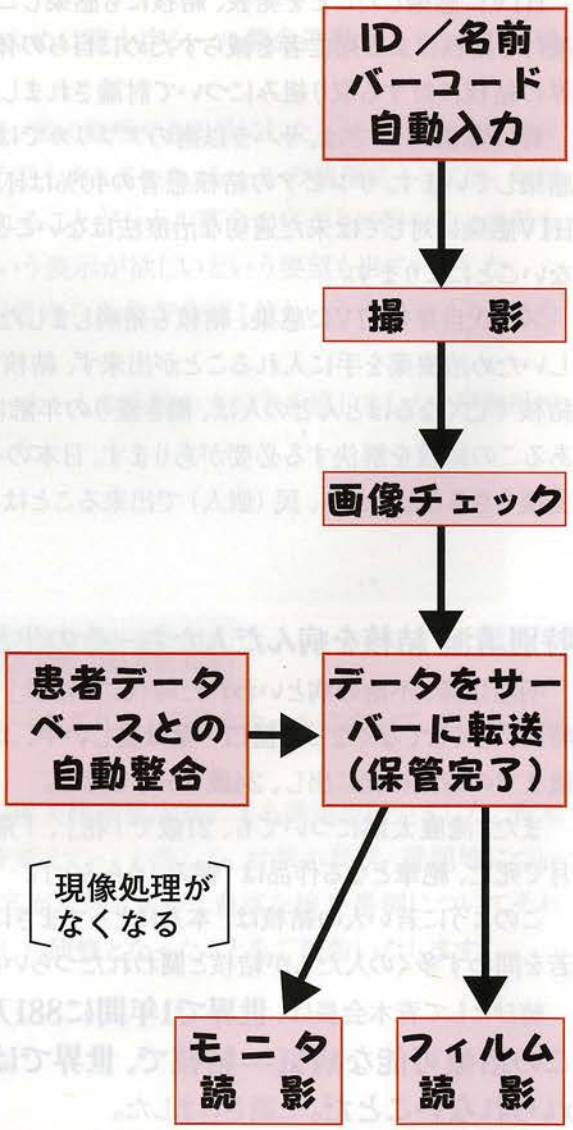
③必要な画像はその場でプリントアウト!

DVDなどにデジタル保存でき、フィルム保管スペースが不要。何度でも同じ画像をプリントアウトでき、その都度フィルムを探してのコピーが不要に成ります。

④モニタで画像観察!

撮影後、モニタ上ですぐに画像観察できるので、撮影ミスがありません。

（渡井 記）



図：デジタル検診の流れ

結核のない世界へ　命へのアクション！

Action for life:towards a world free of tuberculosis

複十字シール運動だより

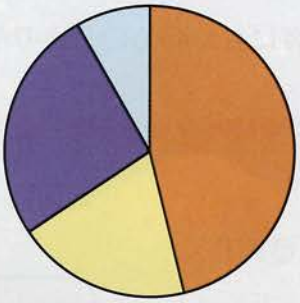
毎年、結核撲滅のための複十字シール運動にご協力いただき誠にありがとうございます。平成17年度は、皆様の心温まる善意に支えられ、目標額より25%を上回る実績を得ることが出来ました。改めて深く感謝申し上げます。募金の使途は右記のとおりです。

複十字シール運動の輪を広げるためにより一層、普及啓発活動に力を注ぎます。今後もご理解ご協力お願いします。

平成17年度募金実績　**総額1,935万円**

（　組織募金　1,730万円　郵送募金　205万円　）

複十字シール募金の使途



- 県結核予防婦人会助成費　46%
- 複十字シール製作費　20%
- 検診車購入積立資金　26%
- 普及啓発費等　8%

リニューアルします

当支部は、複十字シール運動の目的を広く普及するために、毎年、新しい事業展開を積極的に心がけています。18年度は、結核予防週間（9月24日から30日）にアピタ静岡（静岡市駿河区石田）で実施場所をリニューアルして、複十字シール運動キャンペーンを予定しております。また、地元市町健康まつり（予定は9月号で発表します。）などで、17年度にご協力いただいたシール募金益金を利用して制作した検診車お披露目するなど、運動を進めてまいります。ぜひ、みなさんお越しください。

平成18年度　複十字シールデザイン

DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2006

シールの国の優雅な音楽隊

安野光雅さんのデザイン第5弾です。楽器の演奏者や音楽に合わせて踊るペアの姿が愛らしく描かれています。

どなたでも募金運動にご協力できます♪運動にご協力・資料請求をご希望される方は下記にご連絡ください。

財団法人結核予防会静岡県支部

TEL:054−261−2512㈹　mail:tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

図書案内

パンフレット

知って治そう 結核マンガ

平成17年1月改訂

B5判・24頁・定価840円

新しい医療基準に対応。知っておきたい結核の知識を幅広く網羅。

患者さんにも医療従事者も納得の内容。

マンガ よくわかる 非結核性抗酸菌症

B5判・24頁・定価420円

中高年齢層に増えている。知っておきたい基礎知識を幅広く網羅。

患者さんにも医療従事者にもお勧めの分かりやすい内容。

雑　誌

保健師・看護師の結核展望第86号 大好評発売中

3月15日発行後期号

B5判・定価1,995円

特集　：　集団感染とQFT

注文先　財団法人結核予防会静岡県支部　総務課

FAXによる注文でお願いします。

FAX　054-261-9474

結核予防法の廃止、感染症法への統合について

結核予防法の廃止、感染症法への統合については、これまで厚生科学審議会感染症分科会において議論されてきましたが、3月10日感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律案として、国会へ提出されました。

主要な改正事項として、①生物テロや事故による感染症の発生、まん延を防止するための病原体等の管理体制の確立。②最新の医学的知見に基づく感染症の分類の見直し。③結核を感染症法に位置付けて総合的な対策を実施。

結核固有の対策については、必要な規定を設けることとされており、定期の健康診断などについては従来同様に位置付けられています。具体的部分については、今後、政、省令で示されますので、動向を見守る必要があると考えます。(山田 記)

編集後記

肥満症、糖尿病、高血圧症、高脂血症などの生活習慣病は、内臓脂肪型肥満が原因だといわれています。この、内臓脂肪型肥満によって、病気が引き起こされやすくなった状態をメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)といいます。

国は、医療費の増加を抑える趣旨からも、これを標的とした対策が有効であると検討を進めております。具体的には、運動習慣の定着、食生活などの生活習慣の改善、検診や保健指導の充実が柱となるようですが。

予防会としても、こうした新しい動きにあわせ、検診の充実、保健指導のあり方など県民の健康づくりに役立つ検診施設となるよう努力してまいります。(山田 記)

題字：田中隆（元支部職員）　表紙撮影：村木弘知（元県職員）